

抄 録

『團結診療』……脅威力幸福力

"Group Practice" — A Menace or a Blessing? Current Comment. The Journal of the American Med. Association, Feb. 12, 1921.

(六年前私が北米ホストン市ニ客トナツテ居タ時ニ「ハーバード」醫科大學内科教授カボット氏が新聞紙上ニ「患者組合」制ノ意見ヲ發表シ、現在ノ開業醫ヲ痛罵シ「モシ市民五百人が一團トナリ、各一人年百圓ヲ獻金スル時ハ、此組合ニ屬スル醫師團ニヨリテ、其組合員ハ、現在ノ組織ヨリモ安價ニシテ有效ナル手當ヲ受クルチ得可ク、又モシ南ホストン中ノ人民ガ共同シテ各年貳拾圓ヲ支出スル時ハ醫師團ノ效果ハ益場ラン」ト結論シタ。ソシテ是ハホストン醫師會ノ大問題トナリ、「位置ヲ利用シテノ自家廣告ナリ」又ハ「職業ニ對スル大侮辱」ナリト喧シキコトデアツテ、其一端ハ本誌ニ通信トシテ洩シタコトガアツタ。ガ最近二三年間ニ、北米ニテハ醫師ノ側カラ「團結診療」Group practice ナルモノガ大ニ流行シテ來タラシイ。此制度ハ日本ニ於テモ一考ス可キモノデアラウ。ヨツテ此處ニ近着ノアメリカノ雜誌カラ、之ニ對スル意見ノ一ツヲ抄譯スル。抄譯者記ス)

普通「團結診療」ト呼バルル、最重要ナル改革ガ最近

二、三年間ニ北米ニ出現セリ。而シテ之ニ就テ紙上ニ論議セラルルコトモ亦多シ。即チ種々ノ名稱ノ下ニ此「團結診療」組合ハ續々トシテ増加シツツアリ。蓋シ近世醫學殊ニ科學的診斷法ノ發達ハ斯ノ如キ團體ノ成立ヲ必要トスルニ至レルモノナル可シ。即チ種々ノ設備、研究機關、X光線裝置其他ノ如キハ、個人的開業醫ニ於テハ充分ニ又ハ有效ニ設備使用シ得ザルモ、團體的ニハ充分ニ之ヲ設備活用シ得可ケン。

サレド此一新發展ノ未來ハ如何。團結組合以外ノ開業醫ハ如何。或者ハ明カニ其利益ヲ認め、新タニ團結ヲ作リツツアルモ、此等ノ中ニハ又恐ラク自己擁護ノ目的タルモノアル可ク、コレ又畢竟團結ニ對スル團結タラザルカ。或ハ又是ハ全科開業ヲ絶滅セシムル一步ナラザルカ。家庭醫モ亦「團結醫」ニ變ズルニ至ル可キカ。又ハ商賣的或ハ職業的僞善者ガ此等團結ヲ操縱スルニ至ルコト無キカ。此等ヲ考フレバ吾人ハ注意シテ此團結ノ前途及之ガ公衆ニ對シテ如何ナル勢力ヲ有スルヤヲ監視セザル可カラズ。一般素人ハ之ニ對シテ如何ニ考フ可キカ。彼等ハ寧、國家醫業政策ヲ選ブモノニ非ザルカ。吾人ハ此處

ニ此重大ナル問題ニ對シ、今之ニ答ヘシトスルモノニ非ズシテ却ツテ諸君ニ問ハントスルモノナリ。(T生抄)

精神病者ノ血清ニ於ケル ワッセルマン反應ノ意義

J. Allen Jackson and Horace Victor pike, The Journal of
the American Medical Association, Feb. 5, 1921.

氏等ハ米國デーシビル精神病院ニ於ケル觀察ノ結果、從來一般醫家ノ考ヘシ如ク血清ノワ氏反應ハ常ニ其疾患ノ微毒ヲ意味シ、直チニ驅微療法ヲ必要トスル法則ハ、精神的疾患ニ於テハ其悉クニ之ヲ適用スル能ハズ。即チ或ル精神病ニ於テハ其原因ハ微毒ト見做スキモノアルモ多數ノモノニ於テ然ラズシテ、此等ニ於ケルワ氏反應ノ陽性ナルハ單ニ微毒ガ偶發シテ存スルニ止マリ、從ツテ其精神病其物ニ向ツテハ驅微療法ヲ必要トセズ、ト論ジ多數ノ症例ヲ引證セル後、結論トシテ

1. 血清ノワ氏反應陽性ノミヨリシテ、其個人ガ遺傳又ハ後天性微毒ト關係アルヲ示スモ、現ニ患ヒツツアル精神病ガ微毒ニ起因スルト云フ能ハズ。

2. 神經微毒ノ診斷ハ、血清ノ反應如何ニ拘ハラズシ

テ一定ノ神經學的症候及脊髓液反應ニ基準セザル可カラズ。

3. 血清ノワ氏反應陽性ナリトモ、他ノ血清學、神經學又ハ臨牀上ノ所見ガ微毒ノ證左ヲ有セザル精神病者ニ對シテハ驅微療法ヲ要セズ。何トナレバ此際此驅微療法ハ毫モ患者ノ精神的狀態ヲ變セシメザルガ故ナリ。

4. 病歴及臨牀上ノ症狀竝ニ血清ノワ氏反應陽性等ニ明カナル一般の系統的微毒ニ對シテ驅微療法ヲ施スキモ、是ガ精神病ニ對シテノ效果ヲ期待スルヲ得ズ。

5. 一般麻痺又ハ脊髓勞ノ進行セルモノニハ驅微療法ハ無效ナリ。

6. 腦、腦脊髓及脊髓ノ微毒ニ對シテハ極度ノ驅微療法ヲ應用スキモノナリ。

7. 神經微毒ニ對スル有效ナル療法ハ、其疾患ヲ早期ニ認メ且治療スルニ在リ。サレバ一旦微毒ニ感染セル者ニ於テモシ中樞神經系統ノ罹患セル如キ初期症狀ガ現ハルレバ、直チニ強力ナル驅微療法ヲ施スキモノニシテ、是ニ向ツテ、凡テノ微毒患者ハ、其罹患後少クトモ十箇年間ハ之ニ就テ警戒觀察スルヲ要ス。(T生抄)